



小島友実の あの馬の STORY

ナイトアクアリウム



2023年9月10日・阪神 2勝目のウイナーズサークル

「社台ファームで働いていた時に、ファイブスターに騎乗した経験があります。丈夫で扱いやすかった印象があります。また、祖母のスターーリーロマンス、曾祖母のミルレーサーとも触った事があるのですが、この血統の特徴をわかつて強みを活かしたいですね」

ナイトアクアリウムが一歳募集される際、いつ話していた杉山佳明調教師。さういふ牧場縁の血統に、父がロードカナロアという事でかなり期待していました」と話していた事が印象に残っています。

ナイトアクアリウムの初戦は2022年12月24日に阪神競馬場で行われたダート400メートル戦。結果は着ました。

「血統的にはどちらもやれそうと思っていましたが、実際に速いところをやると力強い動きをしていましたが、ダート戦を選択させて頂きました。その初戦は他馬を気にして後ろからのレースになってしまいました。それでも最後は脚を使っていたのでこの一足をいつ使わせるかとの馬が走る、走らないうつ方向性が決まりました。それで、こんな取り組みを行ってきました。

「スタートから直線で置かれるので、2戦目からは中距離を走るようになりました。3戦目の小倉戦で着になるなど結果が出たものの、集中力が持たない面がありました。5戦目までに乗ってくれた騎手達が『良いものを持ったる』と言つてくれて、いたゞ、調教の良さが競馬に結びつかない歯痒さがありました。そのため、普段からつきつきと乗つてくれる騎手をと思いつつ、長岡禎仁騎手にお願いしました。調教からのアシングバーを試したり、ゲートの確

認もしました」と話す。元騎手がレースでは初騎乗となつた2023年4月29日の京都ダート1400メートル戦で走りが一変しました。

「一マイルほど短縮して、『コツカ』をつけた結果を出し切れた。直線は追えは追つほど伸びる感じでしたし、2着馬は0.8秒差でしたからね。持つていてボディシャルや、それまで取り組んできた事が結びました」

そして初勝利からの3戦後、2023年の9月10日の阪神ダート1400メートル戦で1勝クラスを突破。2勝目をマークしました。

「未勝利戦を勝つ後は、クラッシュ慣れをさせたいと考えながら、あえてオープンの青竜ステークスに出走しました。直線では見せ場はあつたものの4着。現状、まだ緩さがあり、勝ち馬とは完成度の点で差があると思います。7月の中京ダート1400メートル戦は暑さの影響して3着。立て直した9月の阪神戦で、思いつた通りに勝ち上がり、2勝目になりました」

2勝クラスに昇級した後の4戦を杉山師はどのように見ていくのでしょうか。

「3歳秋以降の調教の動きは春には雲泥の差。2勝クラスも経験を積めば勝てる手応えはあるのですが、もじかして一筋が通つておらず、むしろやられる仕方です。今後、会員の皆様に喜んでいただけますようにアドバイスしながら、成長していくのが目標です」

「まだこの馬のポテンシャルの半分も出しきれていないと感じています。血統は筋が通つておらず、むしろやられる仕方です。今後、会員の皆様に喜んでいただけますようにアドバイスしながら、成長していくのが目標です」と師はそれでも」と話を続けます。

「私も時々この馬の調教に乗ります。心肺能力が高く、筋肉量があり、力強い動きをします。だから今は精神面が邪魔をして力を發揮しきれていないだけと感じます。少し苦しい面があり、体がつぶれないところを止めるのが難しい

(電話取材 : 2024年2月29日)

profile

競馬キャスター＆ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマートアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（王婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。